

2022 民事法演習Ⅰ 履修予定のみなさま

2022. 3. 22

石田 剛

第1回（4月11日）の授業で使用する課題を配布いたします。

初回から、十分な予習をしてきていることを前提にさっそく質疑応答に入る方法で授業を進めます。予習課題に示された問題にどのように答えるべきか、少なくとも簡単なメモを手元に準備するつもりで毎回予習をしてください。同じ課題をmanaba（※）のコースコンテンツにもアップしておきます。以後の課題は、原則としてmanabaにデータをアップする方法によりお届けします。講義資料の配布や質疑応答その他の目的で頻繁に活用する予定です。

毎回の授業に先立ち、manaba上で受講生のみなさんの回答の方向性につき事前調査をかねて、アンケートを行います（予習課題は遅くとも各授業の1週間前にはアップします。アンケートは授業開始の1週間前の月曜朝（9時）から日曜夕方（17時）の間[初回を例にとると、4月4日9時～10日17時]に提出してください。アンケートの提出実績は予習態度を反映するものとして、平常点評価の一資料として活用させていただく予定です）。

そのためできるだけ早く、各自で「民事法演習Ⅰ」のコースを利用できる状態にしておいてください（なお、民事法演習ⅠA・Bクラスの授業は対面形式により別々に行われますが、manaba上において両クラスはコース・リンクをしており、共通の情報交換の場となるよう設定されています）。

民事法演習Ⅰ（春・夏学期）では、民法の領域から、主に総則・物権と債権各論の分野の諸問題を素材として取り上げますが、財産法の横断的・体系的理解を深めることを目的としているため、講義中に触れる内容は民法の全般に及ぶものと考えておいてください。そのため、学期開始までに、各自手持ちの教科書・体系書・判例集などで復習し、民法（主として財産法）の全体像をできるだけクリアーに描けるようにしておいてください。

教科書や演習書は特に指定しません。「民法判例百選ⅠⅡⅢ」及び内田貴ほか著『民法判例集』（有斐閣）で取り上げられている判例につき一通りの知識があることを前提として授業を進めますので、少なくともこれらの文献は手元に用意しておき、事前に目を通しておくことを推奨します。またテーマごとの復習用の参考文献は各授業時に提示します。

（※事務室注）manaba…一橋大学全学で使用しているポートフォリオシステムです。

新入学生の方も、入学後から使用可能となります。

第1回 予習課題

【設例1】及び【設例2】を読んで、以下の（問1）～（問3）に答えなさい。

【設例1】

1. 大学の同窓会Xは、設立時の中核メンバーAから、その所有する土地甲乙を寄贈された。Xは法人格を有しておらず、甲乙につき、AからXの代表者であるB名義への所有権移転登記がされた。
2. Bは、甲が自己の名義であることに乗じ、甲を自己の所有地と称して、Yに売却した。Yは、甲上に建物丙を築造し、Zとの間で丙につき店舗営業を目的とする賃貸借契約を締結し、Zに引き渡した。Zは、レストランを開業するための準備作業として、丙の内装工事を行った。
3. 病気を理由にBがXの代表者を退任した後、新たに代表者に選任されたCは、就任後まもなく、甲丙がYの所有名義になっていること、Zが丙を店舗として利用していることを知った。
4. その後、Xは一般社団法人になった。Cは、乙の登記名義をBからXに変更するための手続への協力をBに依頼したところ、まもなくBが死亡した。Cは、乙の登記名義回復に向けた措置を一時休止しつつも、Bの唯一の相続人Dに対して、Bが管理していたX関係の書類や印鑑等を葬儀等が一段落した時点で返却してほしい旨を申し入れた。
5. Dは、乙をBから相続により取得したものと考え、Aの死亡から約3週間後、乙につき相続を原因とするBからDへの所有権移転登記をしたうえで、Eに売却した。Eは乙の売買代金をDが指定する預金口座に振り込み、DからEへの所有権移転登記がされた。

（問1）Xは、Yに対して甲の明渡し及び丙の収去を、Zに対して甲の明渡し及び丙からの退去を求めた。想定されるY及びZの反論をふまえ、請求が認められるべきか、検討しなさい。

（問2）Xは、乙の登記名義を回復するために、誰に対してどのような請求をすべきか。想定される相手方からの反論をふまえ、その請求が認められるべきか、検討しなさい。

【設例 2】

1. 結婚披露パーティーに招待されたY(35歳)はX(20歳)と同席し、歓談中に意気投合して、2次会でも長く時間をともにした。Xの容姿を大いに気に入ったYは、Xが美容師養成の専門学校生で、翌年3月に専門学校を卒業後、しばらく修行をつんでから自分の美容室を開業したいと希望していることを知るや、Xを喜ばせようとして、「君が卒業したら、援助してあげるよ。」と述べ、酔った勢いも手伝い、テーブルに備え付けの紙ナプキンに「〇〇(Yの氏名)は、●●さん(Xの氏名)が専門学校を卒業する2021年3月に300万円差上げます。2020年5月1日」と書いたうえで、自分の携帯電話番号もメモして、Xに手渡した。Xは「うれしい」とはしゃいで、その紙を受け取った。
2. Yは、妻子があり、パーティーの時間を楽しく過ごすために軽口をたたいただけで、実際にXに300万円を援助するつもりはなく、Xもそのことを承知しているものと思っていた。
3. ところが、2021年2月頃に、Yの携帯電話にXから突然連絡があり、「あの約束、守ってもらいますからね。」と伝えられて、仰天した。その後、Yは、Xが嫌がる言動をわざと繰り返した。Xは、Yから「私に関わると後悔することになる。住所も知っている。」と脅迫めいたことまで言われて、ストレスで体調を崩し、同年3月末に専門学校を卒業することができなくなった。

(問3) Xは、2021年5月1日、2020年5月1日にXY間において、YがXに300万円を贈与する旨の契約が成立したと主張し、Yに対して、300万円の支払を求めた。想定されるYの反論を複数考え、Xの請求が認められるべきか検討しなさい。

以上